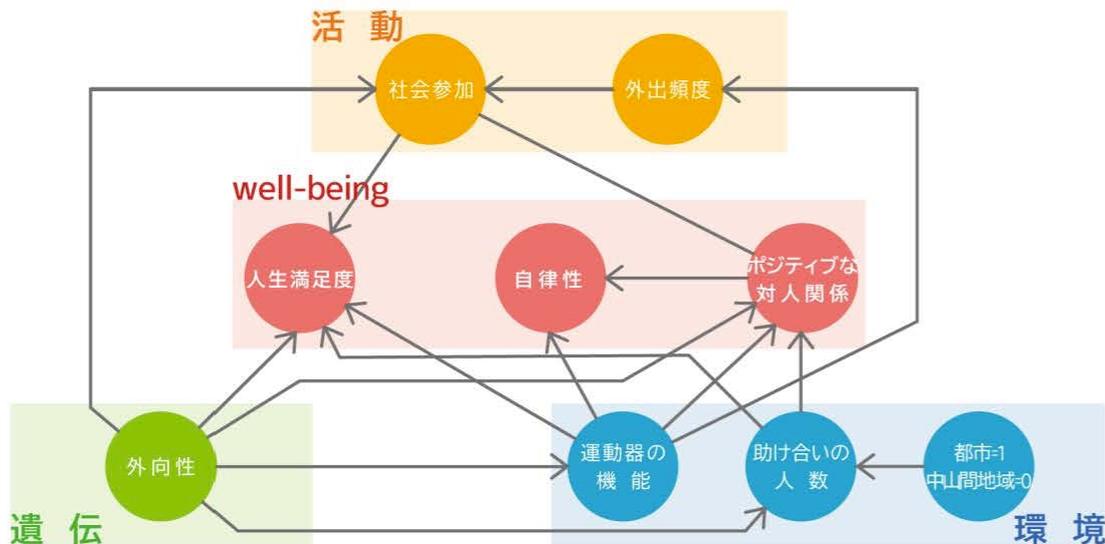


ビジョン・バックキャスティング

高齢者の視点に立ったwell-being

拠点のビジョンである「高齢者が元気になるモビリティ社会」の実現を目指す上で、高齢者の元気を心理的well-beingという視点で捉え、well-beingと関連する要因を定量的に明らかにすることで、COI技術が高齢者の元気に資する可能性をモデルとして提示しました。日本人高齢者を対象に調査した結果、これらの3つの要因が相互に関連しあいながら、高齢者のwell-beingと結びついていることが明らかになりました。例えば、活動要因の場合、単に外出する頻度が高いだけでなく、社会参加を行い他者とつながり合うことが、人生満足度やポジティブな対人関係といったwell-beingと関連する可能性が明らかになりました。



ビジョン達成のための3つの柱

高齢者自身の情報を活用した健康維持と外出誘導により【お出かけしたくなるような身体と気持ち】を創り、【安心・安全に使える車と運転支援】によって楽しく移動し、人がつながるような【共助と自尊心が生まれる場と仕組み】のしくみの社会実装を目指します。

日々の健康

- お出かけしたくなるような身体と気持ち
- インテリクチャルグラス
- 歩行トレーニングロボット

自由な移動

- 安心・安全に使える車と運転支援
- 指導員型運転支援
- ドライバーエージェント
- 高齢ドライバーデータベース

社会参加

- 共助と自尊心が生まれる場と仕組み
- ゆっくり自動運転とその法制度
- モビリティブレンド
- 循環型健康寿命延伸プログラム

高齢者の課題に対応した技術開発

地域特有の課題に対応した技術開発